

重点取組分野	平成29年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	<ul style="list-style-type: none"> 学習において、より基礎・基本の定着に取り組み、指導方法の工夫や個に応じた指導を行う。 「主体的・対話的で深い学び」についての研究を進め、生徒が自らの考えを発表したり、相手の考えを聞いたりするような授業展開をより多く取り入れ、生徒が主体的に学習に取り組めるように授業改善を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的・基本的な学力の定着については、個人差があるので、授業のみならず、家庭学習を含めた補習も考えていきたい。 研修会などを通して、「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業展開を心掛けたが、今後も生徒がより主体的に学習するような授業づくりに努めたい。 	B
豊かな心	<ul style="list-style-type: none"> 教科学習や道徳、行事を通して生徒一人ひとりが成長を感じられる指導や評価を大切にす。 特に、行事等の活動の中で、人とかかわりをもつことで自分の存在を肯定的にとらえ、楽しさを感じ、自らの働きかけで人の役に立った、人に喜んでくれたなど相手の存在によって得られる「自己有用感」もてる指導に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が主体的に道徳や教科学習・行事に取り組み、協力し合って活動する中で、互いを認め合い充実感や達成感、自己有用感をもてるようになってきている。特に道徳では一人ひとりが身近なこととしてとらえることができるように、講師を招いたり、体験活動を行ったりした。 	B
健やかな体	<ul style="list-style-type: none"> 新体力テストの調査結果を受け、向上させる必要がある体力や能力を意識しながら学習に取り組む。 日々の健康観察の充実を図り、生徒の実態、課題に応じた健康教育の充実と保健指導の推進に努める。 学校保健委員会の活動を推進し、食生活や生活習慣を中心とした健康教育の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員室の出席ホワイトボードの記入方法を統一して、健康観察の結果を職員が共通理解できるように工夫した。 学校保健委員会を生徒が参加しやすい時期に変更した。また、生徒の実態に合わせて熱中症の予防について取り上げ、保健委員だけでなく部活動生徒も参加してその徹底を図った。 	B
児童生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 全職員での教育相談などを通じて、いじめや不登校の早期発見に努める。日々のコミュニケーションを多くとれるように休み時間には生徒の近くで寄り添えるように努める。 スクールカウンセラーなどとの連携を図るために、気になる生徒がいれば報告・相談を常にしていくことに努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 面談や教育相談・アンケートの実施により、いじめや不登校の早期発見に努めることができた。生徒に寄り添う指導を意識し、生徒や保護者からの相談が増え、きめ細やかな指導につなげることができた。 SCや外部機関との連携も専任を中心にしながら、教員のみならず多くの関係機関が関わることができた。またSSWIによる対応やケース会議なども行った。 	B
地域連携	<ul style="list-style-type: none"> 地域の祭礼、「みなみ祭り」「桜まつり」等の区の行事への参加を積極的に促し地域や区と連携しながら取り組む。 地域防災には生徒会役員を中心として委員会の生徒なども参加し地域の方々と協力しながら地域防災と災害時の支援活動のお手伝いにも努める。 部活動や委員会活動などで取り組めるような地域連携について検討、実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が地域の祭礼や区の行事にも参加し、地域との連携が図れた。吹奏楽部や和太鼓部は地域の祭礼等で演奏し、茶道部は老人ホームにてお茶会を開き、園芸部は地域の施設にアジサイの苗を寄贈し地域ボランティアとともに中学校の緑化に努めた。 環境委員会でも地域清掃を行い、地域の美化に努め、地域防災拠点訓練では協働する取組を行った。 	A
キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> 職業調べや職業講話、職場体験などの学習を3年間で計画的、系統的に学ばせ、将来の目標や目的にについて具体的に考えられるようにする。 人や社会のかかわりを通して、挨拶や正しい敬語の使いなど、接遇の基本を身に付けさせる。 進路選択の機会を通して自分の適性を理解し、具体的な進路に結びつけられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 夏休みの課題で1年生は身近な人たちに職業インタビュー、2年生は高校説明会に参加、レポートを作成した。1年生は職業講話でさらに学習を深めることができた。2年生の職場体験では、事前訪問や事後の挨拶状も含め、挨拶や正しい接遇についても学ぶことができた。実際に体験することで職業に対する意識が高まり、将来の進路選択に結び付けられると期待される。 	A
いじめへの対応	<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人ひとりの状況についての記録を蓄積、加筆できるようにし、担任や各学年教諭、生徒指導専任教諭が情報を共有してチームによる支援を進められるようにする。 「子どもの社会的スキル横浜プログラム」を授業や学校行事の場面で活用するための研究を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 専任が主体となって生徒指導記録に蓄積、加筆していくことにより、学年だけでなく学校全体として生徒の様子を把握することができるようになった。 いじめ予防策としてy-pアセスメントを利用し、クラスの特長や生徒個人の特徴に気づく良い機会となった。さらに、いじめアンケートに対して教育相談の場を設け、早期対応に努めた。 	B
人材育成・組織運営	<ul style="list-style-type: none"> 校内授業研修やメンターチームなどの研修会を充実させる。キャリアステージに応じた各種研修会を積極的に活用し指導力や資質の向上を目指す。 組織の活性化、効率化を目指し、主幹教諭や各主任等のミドルリーダーの指導力を有効活用するため、主幹・学年主任会等でより良い学校運営に向けて検討していく。負担軽減についても検討していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 校内授業研修を行い教員の授業力向上に努めた。経験の浅い教員の育成の場としてメンター研修を管理職も含め毎月行うとともに、小中ブロックでの合同研修会を行った。 主幹・学年主任会の開催により、ミドルリーダーの育成やスムーズな学校運営にもつなげることができた。 	A
ブロック内相互評価後の気付き	<p>年2回実施しているブロック授業研では、出前授業という形式で小学校で中学校の教員、中学校での小学校の教員による授業を行うなど、それぞれの専門性を生かした研究授業を行うことができた。また、昨年度同様に教科による研究討議にとどまらず各領域での研究討議を行った。それに伴い小中の系統性を様々な側面を意識するようになってきている。一例として、小学校の宿泊行事の内容を把握した上で1年自然教室の内容を見直すに至った。児童生徒のつながりでも部活動体験を行い、部活動の理解を深めることができた。また今年度はブロック内合同メンター研修を行い、小学校と中学校の共通点や違いについて共有し、経験の浅い職員の小中の理解を深め、メンターチーム同士の交流が図れた。</p>		
学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> 各目標へよく取り組まれており、B評価は控えめであると思う。 いじめ防止に関しては、同じことの繰り返しになっても大切なことは何回も伝えていってほしい。 人材育成が活発に行われている。ベテランが経験の浅い教職員の悩みの相談相手になっているのは良いことである。弱音を吐けるからこそ、つぎに頑張れる。メンターの小中交流も良い取組である。 		
学校経営中期取組目標振り返り	<p>創立70周年を迎えた今年度は、記念行事を行うとともに、次の10年間を見据えた上での取組を行った。主なものとして、学期制の見直しと、年間行事の精選・再構築が挙げられる。「主体的・対話的で深い学び」をテーマとした授業研究会や、自律的な「メンターチーム」の運営も軌道に乗ってきており、来年度はさらにその取組を充実させたい。また、新学習指導要領完全実施に向けて、学校教育目標の見直しやカリキュラム編成に取りかかりたいと考える。教職員の負担軽減については、年間行事の配列の見直し、閉庁日の設定、部活動休養日の設定などの対応を行うことになる。</p>		